

は し が き

昭和49年度から50年度にわたる社会科定期研修の成果の一つを「実践研究集録 第13集 社会科編」として刊行いたします。

このたびの研修は、「学習問題の設定とその発展をめざした教材構成」を主題として、昭和49年5月から昭和50年10月までの期間、当センター担当所員と6名の研修員による共同研究の形で行われました。この間、当センターにおける研究協議のほか、研修員の各在職校における授業研究を実施しました。能生小学校、村上小学校、宮内中学校（2回）における授業研究では、全員参加による観察と討議を行いました。また、能生・村上では合宿研究を通して、充実した協議の時間を持ったほか、相互の親睦と理解を深めることができました。特に、小学校・中学校間の相互交流は有益でした。

この集録は、以上の研修成果の中から、研修員が研究主題にもとづき実践的に研究してきた教材構成上の試みについての報告をまとめたものであります。それぞれの教材構成は、学習問題をどのように設定し、それをどのように発展させていったらよいかというねらいにもとづいて検討されたものであります。現在、本県では「指導内容の重点化と教材の精選」という教育的課題に取り組んでいます。教材の精選のめざすものは、学習における学習者の主体性の回復であり、児童・生徒が生き生きと学習問題に立ち向う姿の実現であります。教材の精選は、あくまでも、学習問題の設定とその発展をめざした教材構成に通ずるものでなければなりません。この意味で、ここに集録された6つの実践報告が参考資料の一つとして、広く現場の先生方から御批判・御検討頂きますことを期待しています。

研修員の方々は、それぞれ、学級担任あるいは社会科担任などとして、校内では中堅の立場にあり、学校や地域で重要かつ繁忙な仕事を持ちつつ、2カ年にわたる研修に参加され、この研究集録の作成に当られました。その間の御苦勞はたいへんなことであつたらうと推察いたします。研修員の方々の御努力に対し、ここからの敬意を表します。

終わりに、校務多端のところ、こころよく研修の機会と多大の便宜をお与えくださった校長先生や諸先生方に対し、担当所員および研修員とともに厚く感謝の意を表します。

昭和50年10月28日

新潟県立教育センター所長 高 橋 節 也